



④発信する ③追究する ②粘り強く ①つながる ⑥思いや願いを実現しようとする ⑦課題解決する

「主体的な学び」を創り出す

～夢中になって取り組むことができるようにするために～

校長 このみ 許斐 真也

入学・進級を祝ってくれていた桜も終わり、木々には鮮やかな緑の若葉が繁っています。休み時間には、子どもは気持ちよい天気のもとで新しい仲間と遊ぶなど、思い思いに外で過ごしています。

毎年この時期は、クラスで、学年で、学校全体で子どものやる気に満ち溢れた表情をあちらこちらで見ることができます。過日1年生の教室の様子を見に行ったときには、6年生が、しゃがんで視線を合わせながら1年生に優しく声をかける様子を見て嬉しくなりました。

昨年度の学校便りでは「子どもの頑張ろうとする気持ちを持続するために大切なこと」をお伝えしました。

「(子どもの頑張りを見逃さず) **タイミングよくほめること**」

「**さらなる期待を伝え次の目標を示してやること**」

「**頑張ったことによる成長(よい変化)を伝えること**」の3点でした。

話は変わりますが、北京オリンピックで活躍したカーリング女子チームのある選手は、かつて引退を考えた時期があったそうです。思うような成績を残すことができなかつたことに加え、「カーリングが嫌いになったこと」が大きな理由だったそうです。これは子どもでも同じ、あるいは一層大切なことです。

子どもが進んで活動を始め、夢中になって取り組むようにするためには

- ① 楽しさを味わうこと (「楽しさ」はいろいろあります。できるようになった、勝てた、上手になった、活動を通じて仲間ができた、など山ほどあります)
- ② 好きになれること が特に大切です。

これは学校を含む、子どもの生活全般について言えることです。

学校では、新しい学習に入るときには生活に関連した事柄を採り入れたりそれまで学習してきたことと関連付けたりするなどの工夫をして、子どもの興味や関心を高めています。

そして学習の終わりに行う「振り返り」で、わかったことや自分についた力を確認しています。「学んだことが自分の力になっている」ことをしっかりと実感させていきたいです。

この一つひとつの積み重ねがその子のよさを形作っていきます。同時に「自信」や「自己肯定感」なども少しずつ芽生えてくることでしょう。それが次への意欲や活力につながります。

子どもが若葉のようにぐんぐん成長するよう、願っています。引き続きご理解、ご協力をよろしくお願いたします。